国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS

No. 254
2018 年 8 月

【特集】

診療看護師・専門看護師・認定看護師のご紹介

●VOICE
●開放型病院運営協議会開催報告
●くまびょう　TOPICS
●医学シリーズ　神経内科
●いま、何が研究されているか　診療放射線技師
●研修医レポート
●研修のご案内
●研修日程表

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

特集

診療看護師・専門看護師・認定看護師のご紹介

当院では、多くの専門看護師や認定看護師が現場で活躍しています。その専門性を発揮し、看護師の教育、指導、的確な患者ケア、チーム医療など、その分野の看護の質の向上に貢献しています。

リソースナースとしての活動の一例をご紹介します。

◆**認定看護管理者**
看護協会認定看護管理者教育運営委員・看護学校での講義

◆**感染管理認定看護師**
近隣病院での感染管理に関するシリーズでの講義

◆**認知症看護認定看護師**
熊本市北区での「認知症の予防と会議について」出前講座

◆**摂食・嚥下障害看護認定看護師**
医歯連携セミナーで歯科医師対象に講演予定

◆**がん看護専門看護師**
熊本県看護協会で看護職対象の講義や近隣看護学校での講義

◆**精神看護専門看護師**
近隣看護学校での講義

何かお役に立てることがありましたら、お声かけ下さい。

診療看護師（JNP）

診療看護師（JNP）は、国立病院機構で使用している呼称で「特定の医行為を実施することができる看護職」です。臨床看護経験で培った基盤を元に病態や治療経過等の評価を行い、医師や他職種と連携を図りながら、患者様の QOL 向上に必要とされる介入を、総合的、継続的にフォローをしていく看護職です。研修 2 年目で医学的知識、技術の習得に重きをおいていますが、看護の視点・思考をもったケアの時間も大切であると考えています。今後は、俯瞰した視点・視野を持ち、患者様やご家族へきめ細かいタイムリーなケアを行うためのつなぎ役として、またチーム医療の一員としてフットワーク軽く活動しています。

がん看護専門看護師

がん医療技術や治療が進歩した一方で、患者さんとそのご家族は、治療による副作用や生活への影響、不安や治療の選択、療養の場の決定などさまざまな課題を抱えながら生活しておられます。課題に直面する患者さん、ご家族が安心して医療を受けながら生活出来るよう、がん専門看護師を始めとするスペシャリストが活動しています。スタッフの相談やチーム医療が効果的に実践できるように多職種と協働しています。

精神看護専門看護師

平成 29 年度より精神科リエゾンチームを立ち上げました。リエゾン（Liaison）とは「つなぎ」「橋渡し」の意味で、リエゾン精神看護とは、精神看護の知識と技術を用いて「身体（からだ）とこころをつなぐ」ことにより、身体疾患をもつ患者さんが抱える精神的な問題や課題に対応していく看護領域です。リエゾンナースは精神看護の視点から患者さんや家族への理解を深め、ケアを実践することで、ストレス等を抱えた身体性疾患を持つ患者さん、危機的状況にある患者さん家族と看護師（医療者）間の関係構築をサポートする役割を担う看護師です。

がん性疼痛看護認定看護師

がん患者さまの診断や治療時期から終末期まで、がん性疼痛を有する患者さまに対して全人的な視点でアセスメントを行います。苦痛を取り除くことで、QOL を高め、多くの患者さま、ご家族の「痛み」が和らぐようなサポートに努めています。

がん放射線療法看護認定看護師

がん放射線療法のメリットは、機能温存が可能であり、QOL 向上にも繋がることです。多職種が関わるがん放射線療法におけるチーム医療の一員として役割を果たし、放射線療法の原理を理解した上で治療を安全に完遂出来る様、支援しています。

がん化学療法看護認定看護師

安全・確実な抗がん剤の投与管理や、多様な副作用による苦痛や問題を抱えている患者さまやご家族に対して、治療に納得して向き合うことができるように意思決定を支援したり、症状改善のためのケアを行っています。

認知症看護認定看護師

認知症の状態像を統合的にアセスメントし、各期に応じたケアの実践、体制作りに努めています。認知症の行動心理症状を予防・緩和し、安心かつ安全な療養環境を提供できるよう多職種と連携を図っています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

急性期の脳卒中のリハビリテーション看護の役割は、重篤化回避と合併症予防、リハビリテーションのための身体作りを行うことです。障害を抱えた患者さまやご家族の理解者となり、生活の再構築に向けた看護に取り組んでいます。

摂食・嚥下障害看護認定看護師

摂食嚥下機能の評価を行い、適切なリハビリを行いながら、「食べることによるリスク」「食べないことによるリスク」に対して、専門的な介入を行います。

透析看護認定看護師

透析を受ける患者様が『その人らしい透析生活』が送れるよう、多職種と協働し支援していきたいと思います。また、外来からの血液透析・腹膜透析・腎移植などの療法選択や意思決定支援にも関わっていきたいと思います。腎不全・透析について気軽に相談してください。

皮膚・排泄ケア認定看護師

創傷・オストミー・失禁ケアに関するコンサルテーション活動を行っています。退院後の長期的フォローアップとしてのストーマ外来、医師と共に褥瘡ラウンドを行い、予防対策に取り組んでいます。

感染管理認定看護師

感染管理の専門家として、現在、ICT（Infection Control Team: 院内感染対策チーム）の一員となり、実際に院内を巡視し、感染症発生状況の把握、対策の助言、また教育・啓蒙を行い、医療関連感染の低減を目指して活動しています。

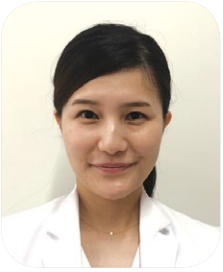
集中ケア認定看護師

生命の危機状態にある患者さま及びそのご家族に対して、重篤化の回避と早期回復に向けて援助を行います。活動の場は集中治療領域に留まらず、一般病棟の重症患者さまに対して、呼吸ケアなどのコンサルテーション活動を行っています。

救急看護認定看護師

超高齢化社会を迎え救急車搬送件数は増加の一途をたどっており、救急医療の必要性、重要性が高まっています。刻一刻と変化する患者さんの状態の変化を観察し、異常の早期発見に努め、医療ニーズに応えた救急看護を実践しています。

VOICE
登録医の声



医法）日隈会
日隈病院
理事長・院長 山本　藍

◆貴院のアピールをお願いします

当院は南熊本駅近くの萩原町に位置する精神科病院で今年 66 年目です。認知症の高齢者の方、うつ病、統合失調症の方等の診断、治療を行っております。認知症治療病棟、精神療養病棟の計 180 床と介護施設としてグループホーム 18 室、有料老人ホーム 71 室があり、緑に囲まれた静かな環境の中療養していただけます。また、退院後も外来通院を続けていけるよう精神科訪問看護として患者さん宅を看護師、精神保健福祉士、作業療法士で訪問し支援を行っています。

◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

頭部 CT、心理士による心理検査等を用いて診断を行います。もの忘れ外来では認知症の検査の希望や徘徊、不穏、妄想等認知症の周辺症状でお困りのご家族よりご相談をいただいています。最近は不安や不眠でお悩みの若い方の相談も増えています。外来受診はもちろん入院に関しても可能な限りお断りしないよう、お待たせしないよう心がけております。転院のご依頼も内科的に対応が可能であれば出来る限りお受けいたします。どうぞ当院地域連携室までお気軽にご相談下さい。

◆先生の趣味・お勧めスポットを教えて下さい

趣味は今年始めた刺繍です。直径 8cm の刺繍枠に収まるとても小さな範囲ですが、刺繍をしていると無心になっています。おすすめスポットは南関の物産館「いきいき村」です。熊本市内から 1 時間弱とドライブに丁度良い距離なところが気に入り、新鮮な野菜や卵を求め時々伺っています。ソフトクリームや南関揚げの巻き寿司も人気のようです。

【診療科目】
精神科、神経科、神経内科
【診療時間】
月～金　9：00～12：00　14：00～17：00
【休診日】
土曜・日曜・祝祭日
【住所】
〒860-0832 熊本市中央区萩原町 9 – 30
【TEL】
096 – 378 – 3836
【関連施設】
住宅型有料老人ホーム「清祥庵」・グループホーム「悠々居」・訪問介護事業所「けやき苑」

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいとのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、**関係医療機関の皆様から頂くお電話のみ** をお受け致します。 患者様からの直接のご相談は、代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。 ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室長　渡邉健次郎

地域医療連携室直通電話　096 – 353 – 6693
月～金（祝日を除く）AM 8：30 ～ PM 17：00

平成 30 年度 第 1 回
開放型病院運営協議会が開催されました

7月10日（火）、当院会議室にて国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が開催されました。協議会には、外部委員として今年度熊本市医師会会長に就任されました園田 寛先生（当協議会委員長）、同医師会副会長に就任されました田中 英一先生、昨年度より引き続き同医師会理事の家村 昭日朗先生、今年度同医師会理事に就任されました緒方 一朗先生の４名の先生にご出席いただきました。

髙橋院長の開会挨拶、園田委員長のご挨拶に続き議事に入りました。議事では、事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、前回の開放型病院連絡会報告、くまびょうニュースの発行状況についての報告がありました。続いて開放型病院連絡会の開催について協議が行われました。その結果、平成３０年度第1回開放型病院連絡会を、平成３０年９月３日（月）午後７時より、ホテル日航熊本５階阿蘇の間にて開催することを決定し、協議会は閉会となりました。開放型病院連絡会は総会と意見交換会の２部構成となっています。会場は、２部とも同ホテル５階の阿蘇の間で行います。総会では、症例呈示、地域医療連携室及び紹介予約センターからのお知らせを予定しています。総会終了後、引き続き意見交換会を行います。

この連絡会を機に地域の医療機関の皆さまと益々の連携強化を図りたいと考えています。どうぞ医師、メディカルスタッフ、看護師、ＭＳＷ、事務職他多くの皆さまのご参加を賜りますようお願い申し上げます。

（管理課長　福田 信也）

平成 30 年度 第 1 回　開放型病院連絡会のご案内

日時：平成 30 年 9 月 3 日（月）午後 7 時～ 9 時
場所：ホテル日航熊本（5 階 阿蘇の間）

― 内容 ―

（1）開放型病院連絡会総会（5 階　阿蘇の間）

1）症例の呈示		
「フュージョン・イメージングを活用した肝細胞癌に対する次世代マイクロ波凝固療法」	消化器内科部長	杉　和洋
「両側同時の人工膝関節置換術の経験	整形外科医長	福元　哲也
2）地域医療連携室からのお知らせ	地域医療連携室長	渡邉健次郎
3）紹介予約センターからのお知らせ	地域医療連携副室長	菊川　浩明

（2）意見交換会（5 階　阿蘇の間）

【連絡先】国立病院機構熊本医療センター管理課
電話　096-353-6501　内線 2311(福田・毛利)

FUNCTION

「新人看護師リフレッシュ研修」開催

6月15～16日

「新人看護師リフレッシュ研修」に参加させて頂きました。普段の忙しい業務を忘れ南阿蘇の大自然の中で研修することで、新人看護師同士で様々な思いを共有しリフレッシュすることが出来ました。また、病院では見られない様な爽やかな笑顔もみられ楽しみながら研修を行うことが出来ました。今回の研修での学びを活かせるよう病棟でもこれまで以上に取り組んでいきたいと思います。

5階西病棟看護師
本郷 亜季
Aki Hongo

「第96回 特別講演」開催

6月20日

▲講演される菅井基行センター長（上）と、松井真理主任研究官（下）

国立感染症研究所薬剤耐性研究センターの菅井基行先生からはカルバペネム耐性腸内細菌科細菌、松井真理先生からは薬剤耐性アシネトバクターについて解説していただきました。いずれも国内で問題になっている、院内感染対策上重要な薬剤耐性菌であり、その知識を深めることができました。

感染制御室長・小児科部長
水上 智之
Tomoyuki Mizukami

「七夕コンサート」開催

事　務

7月5日（木）13時30分から、ボランティアで活動されている「美齢重（ミレージュ）」の皆さんによるトーンチャイム演奏の七夕コンサートが、外来フロアで行われました。30名以上の方々にお集まり頂き、トーンチャイムの優しい音色に皆さん心安らぐ時間を過ごされたようで、大盛況に終わりました。

庶務班長
毛利 安則
Yasunori Mori

「熊本県内５施設の合同幹部会議及び連携室会議」開催

6月26日

◀桑島機構本部医務担当理事

▶熊本南病院金光院長（院長代表としてご挨拶）

▼桑島理事による特別講演の様子

６月26日、18:30から熊本ホテルキャッスルで、「熊本県内５施設の合同幹部会議及び連携室会議」が開催されました。開催の目的は、共有の問題点について意見を交換すると共に、お互いの病院の交友の輪を広げ、質の高い医療の提供ができればとの発案からです。最初に機構本部医務担当理事の桑島理事より、「診療報酬改定のその後と長時間労働削減に向けた取り組み」と題して、機構の経営状況、診療報酬改訂後の動向、「働き方改革」の今後の取り組みについて特別講演を行って頂きました。その後、意見交換会に移り、桑島理事を始め各病院の幹部職員で、活発な意見交換が行われました。今年が第１回目でしたが、来年、再来年と更に充実した会議が行われることを期待しています。

※本会議には熊本再春荘病院、熊本南病院、菊池病院、国立療養所熊本恵楓園、熊本医療センターの５施設の院長・園長をはじめ、各病院の幹部職員や地域医療連携室の職員50名が参加しました。

管理課長
福田 信也
Shinya Fukuda

INFORMATION

「医学生のための病院説明会」開催

研修医

６月30日（土）今回多数の学生（61名）の御参加を得、当院からも、殆どの診療科医師、研修医、事務部職員が参加し、準備、スライドオリエンテーション、院内案内、シミュレーション装置のデモ、意見交換会から後片付けに至るまで本当に御苦労様でした。当院の魅力が十分に伝わったと確信しています。

教育研修部長・腎臓内科部長
富田 正郎
Masao Tomita

INFORMATION

「国立病院機構九州グループ 臨床研修合同説明会」開催

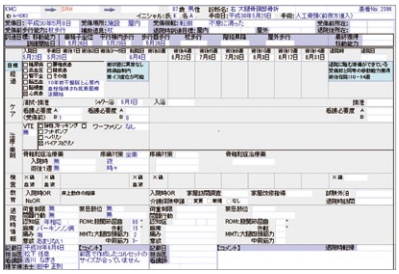
研修医

６月２３日（土）福岡・九州医療センターで開催された医学生対象の上記説明会に当院含め九州山口の９病院が参加しました。当院は指導医３名、事務職３名、研修医５名参加。全体へのPowerPoint プレゼンと計３３名もの学生に個別に病院説明を行い、遠方開催なるも大変充実していました。御参加いただいた皆様に深謝申し上げます。

教育研修部長・腎臓内科部長
富田 正郎
Masao Tomita

第 110 回「熊本大腿骨頚部骨折シームレスケア研究会」開催

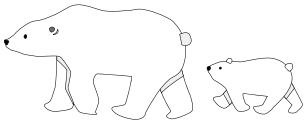
リハビリ

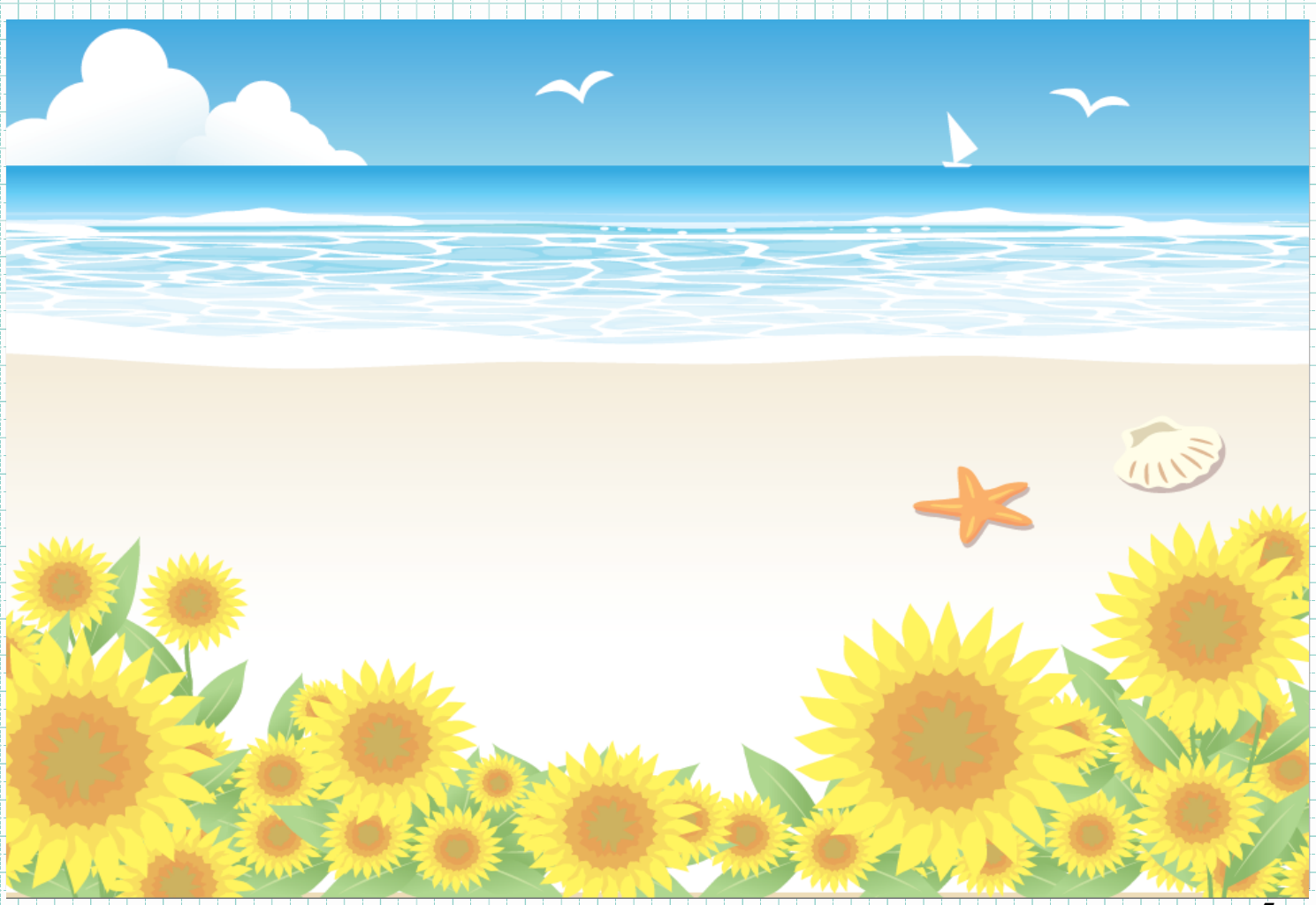


◀電子版地域連携パスの紹介（特定できる患者情報は伏せてあります）

６月１２日（土）研修センターにて、『熊本大腿骨頚部骨折シームレスケア研究会』を開催いたしました。前田智整形外科医長が世話人として159名の方々をお迎えし、リハビリテーション科も運営に携わりました。聖ヶ塔病院の回復期リハビリの成果と、あきた病院でのご家族の希望がFIM点数の向上に直結しているという興味深い報告を頂きまし

理学療法士長
田中 正則
Masanori tanaka





最近のトピックス

パーキンソン病の非運動症状

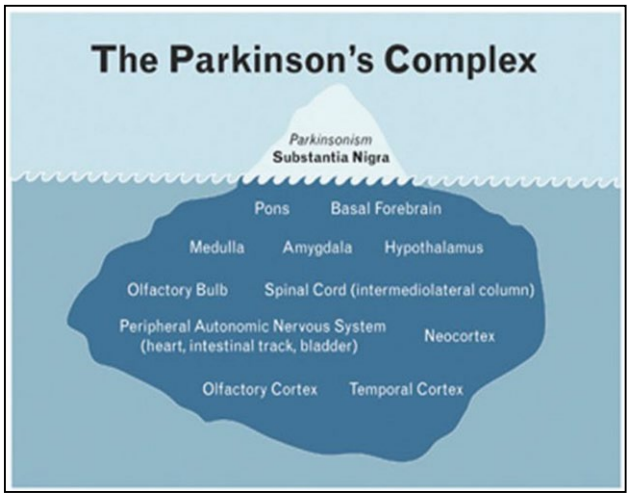
神経内科医長
幸崎（こうざき） 弥之助（やのすけ）

パーキンソン病は動作緩慢、振戦、固縮、姿勢反射障害の運動症状を四大症候とする神経変性疾患です。私たち神経内科医も、それら運動症状を主訴に患者さんが外来を受診したり、またかかりつけ医の先生方からもそれらの症状についてご紹介いただくため、運動症状に注目しがちです。しかし近年、パーキンソン病における運動症状以外の多岐にわたる非運動症状が注目されています。

古くはパーキンソン病は中脳黒質のドパミン神経細胞が変性し錐体外路系が選択的に障害される変性疾患のため、前述の四大運動症状を呈すると考えられてきました。対して現在ではパーキンソン病の病理学的変化は錐体外路系のみならず、他の神経系にも出現することで非運動症状を含む多彩な症状を呈することが分かってきました。現在では四大運動症状はパーキンソン病症状の氷山の一角にすぎず、出現する症状の全体を Parkinson's complex として、多様な症状を呈する全身性疾患ととらえる考え方が提唱されています＜図＞。

非運動症状には、抑うつや不安などの精神症状、レム睡眠行動異常症などの睡眠障害、起立性低血圧や便秘などの自律神経症状、さらに嗅覚低下などがあります。通常は運動症状の出現をもってパーキンソン病と診断されますが、非運動症状はしばしば運動症状の出現前、すなわちパーキンソン病の発病の以前から認められることが明らかとなってきました。逆にこうした特徴的な非運動症状を全く認めない場合にはパーキンソン病である可能性が低いともされます。このことからは寝言や夜間の異常行動、嗅覚低下により味を感じなくなった、消化管の検査でも原因のはっきりしない便秘など、よく問診して非運動症状を拾い上げることがパーキンソン病の診断精度を上げるうえで有用であり、逆にこれらの非運動症状を有する患者さんを長期観察して、手のふるえや表情の乏しさ、姿勢の変化などに注意することで、パーキンソン病を早期発見できるかもしれません。

当院神経内科では上記のような問診内容、神経診察から得られる情報に加え、パーキンソン病の診断に有用な核医学検査などを用いて、少しでも診断に近づく努力をしつつ、かかりつけ医の先生方との病診連携に努めて参ります。



＜図＞ Langston JW. The Parkinson's complex: parkinsonism is just the tip of the iceberg. Ann Neurol 59: 591-596, 2006

いま、何が研究されているか　シリーズ125回

自動トラッキングを利用した仮想透視画像作成の検討

診療放射線科　深松 昌博

【背景】

近年、迅速なIVR遂行のために、手技を行う前にCTで得られたボリュームデータを3D画像処理システム上で処理を行い、仮想透視画像を作成しています。仮想透視画像とは、透視時の画像に類似したRay Summation image上に、手技に必要な血管経路を重ねて表示するものです（図1）。この画像を参照してIVR手技を行うと、血管走行や分岐位置を直感的に把握することができ、回転させることで、より良いworking angleを知ることができます。解剖把握のための血管撮影を最小限に減らすことができ、使用する造影剤量や被ばく量を低減させるだけでなく、手技時間の短縮によって合併症を減らすことにもつながります。

【目的】

3D画像処理システムの自動トラッキングを利用して、迅速な仮想透視画像作成について検討します。

【方法】

装置はザイオソフト株式会社製のZiostation2 with TXAを使用し、仮想透視画像作成を行いました。血管走行の描出を自動トラッキングとマニュアルで行ったときの仮想透視画像の画像作成時間を比較しました。自動トラッキングの評価は、plotする目的血管のCT値と抽出成功率を比較し、plotする目的血管の血管走行（垂直・水平）と抽出成功率を比較しました。また、始点と終点の距離が離れたときの抽出成功率を比較しました。

【結果】

自動トラッキングを利用すると短時間で画像作成が可能であり、画像作成時間は7.74 ± 0.79秒でした（図2）。自動トラッキングの評価では、CT値と抽出成功率は相関しませんでした。目的血管が横断面に垂直な部分をplotした場合は、抽出成功率は91.6 ± 5.6%で、平行な部分をplotした場合は、82.4 ± 3.9%となり、垂直な部分をplotした場合が、抽出成功率が高かったと考えられます。終点が大動脈の場合は100%、腹腔動脈の場合は97.2 ± 2.4%、総肝動脈の場合は91.6 ± 5.6%となりました。plotする始点と終点の距離が離れると抽出成功率が低下しましたが、距離が最大となる右大腿動脈から総肝動脈で91.6 ± 5.6%でした。

【総括】

自動トラッキングを利用することで、迅速で正確な仮想透視画像作成が可能であると考えられます。

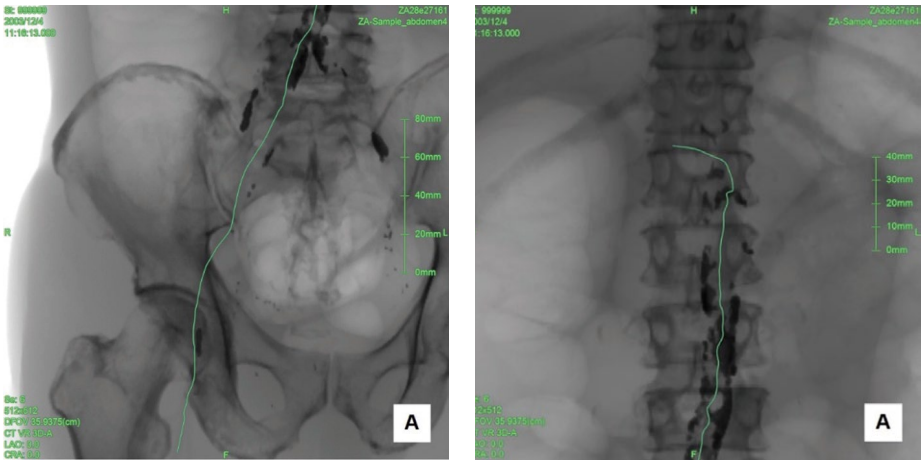


図1　仮想透視画像

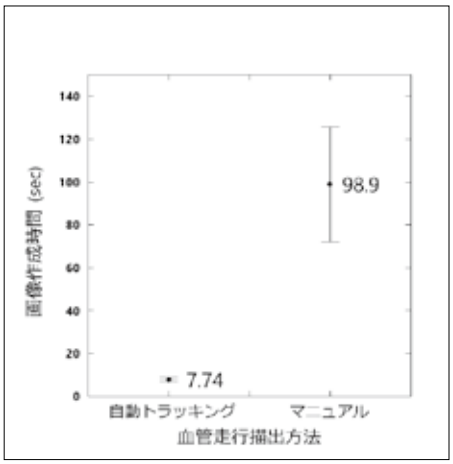


図2　血管走行描出方法と画像作成時間

研修医レポート

臨床研修医

上村 剛史

こんにちは。研修医１年目の上村剛史と申します。今年の３月末に熊本大学医学部を卒業し、４月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。不慣れな点が多々あり、ついていくのが精一杯の日々を過ごしていると、気がつけば研修がスタートしてからおよそ２ヵ月経過していました。

臨床研修最初の診療科は消化器内科からとなりました。患者さんのプレゼンテーション、回診、診察、オーダー、文書作成など、病棟での数多くの業務を目の前にして、医師の業務の多忙さを実感するとともに、数多くの経験をさせて頂きました。最初は右も左もわからない状態ではありましたが、指導医の先生方や２年目の研修医の先輩方など、多くの方々にご協力やご指導頂いたことで日々少しずつ自身が成長していることを実感できました。また、採血や透視、内視鏡、中心静脈カテーテル、腹部エコーなど、多くの手技を見学あるいは実施することができ、充実した研修であったと感じております。

消化器内科での研修が６月上旬に終了し、次に外科での研修が始まりました。内科から外科になったことで、研修内容は大きく変わりました。手術器具の名称や使用法、手技の手順、術前・術後処置など、外科以外の診療科では学ぶことが難しい内容が多々あり、有意義な研修となっていると感じています。病棟業務についても、術後の呼吸循環、疼痛の管理や輸液、栄養、治療薬など、学ぶべき内容が多々あり、また自身の勉強不足を実感しております。

救急の当直や研修科のオンコールなど、日々多くの業務により忙しい日々を過ごしておりますが、周りの先生方の熱心なご指導やお気遣いのお言葉を励みに日々努力していきたいと考えております。これからも各々の診療科で多々ご迷惑をおかけすることになるかもしれませんが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

臨床研修医

梅田 美結

こんにちは、研修医１年目の梅田美結と申します。生まれ育ちは八代で、熊本大学医学部を卒業し４月から初期臨床研修医として働かせていただいています。働き始めた頃は、まさに右も左も分からないという状態でしたが、たくさんの先生方やスタッフの方々のおかげでなんとか少しずつ慣れながらあっという間に３ヶ月が過ぎようとしています。

私は外科から研修がスタートしました。学生時代の実習は主に手術の見学だけでしたが研修では入院から手術、そして術後管理、合併症のフォローなど臨床の現場に来るまでなかなか学べなかったことをたくさん学ぶことができ、忙しく大変なこともありましたがそれ以上に充実していて楽しい研修をさせていただくことができました。また、時にはとても重症な患者さんを担当することもあり、患者さんがみるみる元気になっていくのをとても嬉しく思うこともあれば、何もすることができずただ無力感を感じることもあり、本当に貴重な経験をさせていただいたと思っています。

そして６月からは血液内科で研修させていただいています。熊本医療センターは移植がとても活発に行われているということを以前から知っていたため、研修ではぜひ血液内科を回りたいと思っていました。実際に血液内科で研修していると、血液の疾患の悪化のスピードの早さを痛感し、そしてそれに化学療法や移植で立ち向かう先生方の情熱を間近で感じることができます。また、血液内科では骨髄穿刺やPICC挿入など手技をたくさんすることができ上手くいくこともあればいかないこともあり、反省の毎日ですが少しずつ出来るようになることが増えているような気がします。

まだまだ分からないことだらけでご迷惑をおかけすると思いますが、積極的に学ぶ姿勢で成長していきたいと思いますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

研修のご案内

第97回　特別講演（無料）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］

日時▶平成30年８月１日(水)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長　清川哲志

「抗サイトカイン抗体症候群－Physician Scientistの視点から－」

熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器内科学教授　坂上拓郎　先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター　TEL 096-353-6501（代表）096-353-3515（直通）

第234回　月曜会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］

日時▶平成30年８月20日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室２

1．内科症例検討　　診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います

「第１症例　脳梗塞を発症した膵癌の症例」

国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長　礒部博隆

「第２症例　血尿・蛋白尿の一例」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科　松岡隼平

2．ミニレクチャー「慢性疾患と貧血」

国立病院機構熊本医療センター血液内科　平野太一

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長　富田 正郎　TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第162回　救急症例検討会（無料）

日時▶平成30年８月22日（水）18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「内因性救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長　富田正郎
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長　西川武志

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630　096-353-3515（直通）

共同指導の制度をご利用下さい

先生方には日頃より患者様のご紹介を頂きありがとうございます。

共同指導は、かかりつけ医からのご紹介の患者様がご入院された場合、ご紹介を頂いた先生に当院にお越し頂き、当院の担当医師と共同で診療を行うものです。患者様はかかりつけ医と当院の担当医師とで情報交換を行うことにより、入院中および退院後の治療をよりスムーズに受けることができます。

ご紹介頂いた患者様がご入院されましたら、共同指導のご案内をFAXさせて頂きますので、ご活用下さい。

当院へご紹介頂いた患者様の最善の治療を行うために共同指導の制度を是非ご利用下さい。

地域医療連携室長　渡邉健次郎

2018 8月 研修日程表

国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター

8月	研修センターホール	研修室
1日（水）	**18：30～20：00　第97回 特別講演** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］** **座長　国立病院機構熊本医療センター副院長　清川哲志** **「抗サイトカイン抗体症候群　－Physician Scientistの視点から－」** **熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器内科学教授　坂上拓郎　先生**	
2日（木）	8：15～8：45　二の丸モーニングセミナー 「救急疾患の画像診断」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長　根岸孝典	
3日（金）		
4日（土）		
5日（日）		
6日（月）		
7日（火）		
8日（水）		
9日（木）		
10日（金）		
11日（土）		
12日（日）		
13日（月）		
14日（火）		
15日（水）		
16日（木）	20：00～21：30　第79回 医歯連携セミナー 座長　国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長　中島　健 「摂食嚥下障害の基礎（入門編）」 国立病院機構熊本医療センター摂食・嚥下障害看護認定看護師　田平佳苗	
17日（金）		15：30～16：45　肝臓病教室（研２） 「肝硬変・自己免疫性肝疾患について」
18日（土）	8：50～17：25　第７回 すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア －ELNEC-J in KMC－　（１日目）	
19日（日）	8：30～16：45　第７回 すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア －ELNEC-J in KMC－　（２日目）	
20日（月）		**19：00～20：30　第234回 月曜会（内科症例検討会）（研２）** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］**
21日（火）		
22日（水）	14：00～15：30　第65回 市民公開講座 「抗がん剤治療の基礎知識」 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長　山本春風 **18：30～20：00　第162回 救急症例検討会** **「内因性救急疾患」**	
23日（木）	8：15～8：45　二の丸モーニングセミナー 「外傷初期診療」 国立病院機構熊本医療センター外科医長　水元孝郎	
24日（金）		
25日（土）		
26日（日）		
27日（月）		
28日（火）		
29日（水）		
30日（木）	8：15～8：45　二の丸モーニングセミナー 「急性心筋梗塞の診断と治療」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長　藤本和輝	
31日（金）		

研１～３　２階研修室１～３

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ（http://www.nho-kumamoto.jp/）をご参照ください。

問い合わせ先　〒860-0008　熊本市中央区二の丸１番５号　国立病院機構熊本医療センター２階　地域医療研修センター TEL 096-353-6501（代）内線2630　096-353-3515（直通）

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008　熊本市中央区二の丸１番５号
ＴＥＬ（０９６）３５３-６５０１（代）
ＦＡＸ（０９６）３２５-２５１９
連携室直通TEL（096）353-6693
連携室直通FAX（096）323-7601